INTERVIEW

田中 真文氏に聞く 組合運営と業界の今後

全日本製本工業組合連合会 会長、東京都製本工業組合 理事長に就任

5月24日に東京都製本工業組合理事長、5月25日に全日本製本工業組合連合会会長に田中真文氏(東京工組・北部支部、㈱田中紙工社長)が就任した。東京では副理事長、全国では副会長兼専務理事からの昇格である。3期6年務めた前大野亮裕理事長・会長からバトンを受け、50歳代半ばの新世代リーダーの手腕に製本業界の期待が集まる。今後の組合事業運営と製本業界に対する考えを聞いた。〈文責・編集部〉

「製本業界を正しく理解してもらうために積極的な情報発信をしていきたい」と語る田中真文氏

組合員の声をヒアリング
取引慣行改善に意欲

本紙でも既報のとおり、東京組合では2月に開催した臨時総代会で、平成30年度からの賦課金改定を決めた。平成3年以来27年ぶりの実施である。

その背景には、東京の組合員数が直近10年で約38%減少、従業員数も約35%減少という厳しい現実がある。もちろん、歴代の執行部も事業内容の見直しや運営の効率化などに努めてきたが、出版市場の縮小、デジタル化の急伸、メディアの多様化により、紙の需要=製本需要の減少に歯止めがかからない厳しい状況が続く。これは全国の組合、他団体の組合を見ても共通した現象といえる。

ただ、賦課金を組合員各社にとっての「投資」と考えれば、投資以上のリターンを回収するため、各社が組合事業をより積極的に活用していく姿が望ましい。

課題が山積する中で登板することになった田中理事長・会長は、本部が広く組合員の意見を吸い上げ、事業運営に活かしていくとともに、組合員からも改善提案が次々に上がり、業界が活性化するようなボトムアップ型の改革を理想として描き、取組みを広く呼びかけている。

◇

―トップに就任された今の気持ちは。

日頃より組合員のみなさまには、組合活動に対してご理解とご協力をいただいており、まずもって感謝申し上げます。こし、セミナー・講習会・展示会などを各種収益事業の推進などを進めていきたいと考えています。

事務局については、すでに人員の削減を行いましたが、就業規則の改定と合わせて、職員の労務環境整備と業務の効率化を図っていきます。職員同士のコミュニケーションにも改善の余地が多く、風通しの良い組織とするために、今期から専務に就任した関昌豊さんに週に何日か本部に出ていただき、職員との橋渡し役となっていただきます。

こうした改革を進める一方、これまで組合事業をあまり活用されてこなかった方にも、これを機にどんどん活用して、メリットを享受していただきたいという思いがあります。

私が一番初めにやるべきは、組合としての原点に返った情報交換だと考えています。そのため、各支部の支部会に出席して、要望をヒアリングし、率直な意見を伺ったうえで、しっかりと本部運営に反映させていきたいと思います。毎月2支部、半年ほどですべてを回る予定です。

また、9月1日に名古屋で開催される全製工連の愛知大会も、全国のみなさんの声をヒアリングする良い機会だと捉えています。

―組合の重点事業として取引慣行の改善を挙げています。

受注単価の低迷と製本会社に係るクレーム、過剰品質要求により、製本会社の利益は大きく圧迫されています。製本業界の現状を正しく認識してもらうことがとても重要です。

これは単なる値上げの要望ではありません。製本会社の事業が継続できるような配慮を取引先のみなさまにもしていただきたいということです。たとえば、印刷会社が製本設備を内製化することで、かえって非効率や低収益になる可能性は十分にあります。プロの専業者である製本会社をうまく利用していただき、効率的な受注体制を組めれば、お互いにもっとメリットを得ることができるはずですので、その辺の理解を促進させていきたい。

また、私たちの側にも、より価値を生むための技術やサービスの差別化と、外への情報発信が必要になります。さまざまな仕事に応じた各社の得意分野などの情報を組合としてもしっかりと発信し、必要な製本会社に発注していただける仕組みを作っていきたいと思います。

理事長に選出された東京の総代会で抱負を述べる田中氏と5人の副理事長(5月24日)

田中真文(たなか・まさふみ)氏

田中真文氏は1963年(昭和38年) 7月14日生まれ。今年7月で55歳となる。出身は東京都板橋区の蓮根。父親(故・田中千里氏)が1962年に創業した会社は住まいと一緒であり、「工場が遊び場」だった。インテリアデザイナーになりたい希望もあったが、父親の説得もあり、出版社での営業経験を経て、1987年に家業に入った。2006年に代表取締役社長に就任。

田中紙工(本社・東京都板橋区坂下)は社員65人(正社員35人、常勤パート30人)で、正社員の平均年齢は約35歳と若い。埼玉県戸田市に工場がある。

高精度の断裁技術を活かし、主にトランプ・カルタ・トレーディングカードなど、カード類の加工を手がける。トランプ製作の専門Webサイトの運営やオンデマンド印刷機の導入など、加工技術とITを融合させた新しいビジネスモデルにも挑戦している。

家族は奥様と2男1女。長女は今年4月に田中紙工に入社した。「仕事ぶりを見られていると思うと、しっかりしなくてはと自覚ができました(笑)。家での会話も増えました」と田中氏。

趣味は関東近辺の日帰り温泉めぐり。自然散策を兼ねてぶらりと出かけ、貴重なリフレッシュの時間となっている。数年かけた旧中山道歩きも今年ようやく達成した。